

Spire_M

音楽のおくりもの Information

小学校版
通巻第22号

音楽×学び

子どもの意気込みと、こんなやさしさ
「土笛」づくり…始めた子ども

福井大学 橋本 龍雄

「音楽づくりワークショップ」に参加して

和楽器を使う授業のコーディネート

作曲家 眼龍 義治

カセットテープからオーディオCDをつくる

編集部からのお知らせとお願い



音楽 × 学 び

子どもの意気込みと、こんなやさしさ
「土笛」づくり：始めた子ども

消防車が来た！ えっ、まさか…。予感は的中した。夜明け頃、土笛の野焼き準備のために、運動場に掘った直径3メートル、深さ30センチ程の穴で、ちょっと大きめのたき火をしていた時だった。

「運動場が燃えている！」近所の家から消防署に通報が入り、近くの分署から消防車が出動したのだった。

私の実践にはこんな騒動のオマケつきが多く、関係の方々に迷惑をかけてきた。懲りない分、猛反省している。

土笛は、1985年以來26年経った現在も、授業や公開講座等で継続中の実践である。土笛には私たちを虜にして離さないモノがある。未知という不思議、古代のロマン、土の感触、炎の感覚、そして何よりも、自分が作った世界にたった一つの楽器で演奏する、という経験ができることである。そこにはすごいドラマがあるから。

土笛をめぐる実践は小学4年生から始まる。土笛づくりに先立って、すてきな音さがし→音づくり→ストローを使った笛づくりと音楽づくり→発表会。

5年生では、土笛の形作り→乾燥→サウンドウォーク→野焼き→音楽づくり→演奏→発表会。

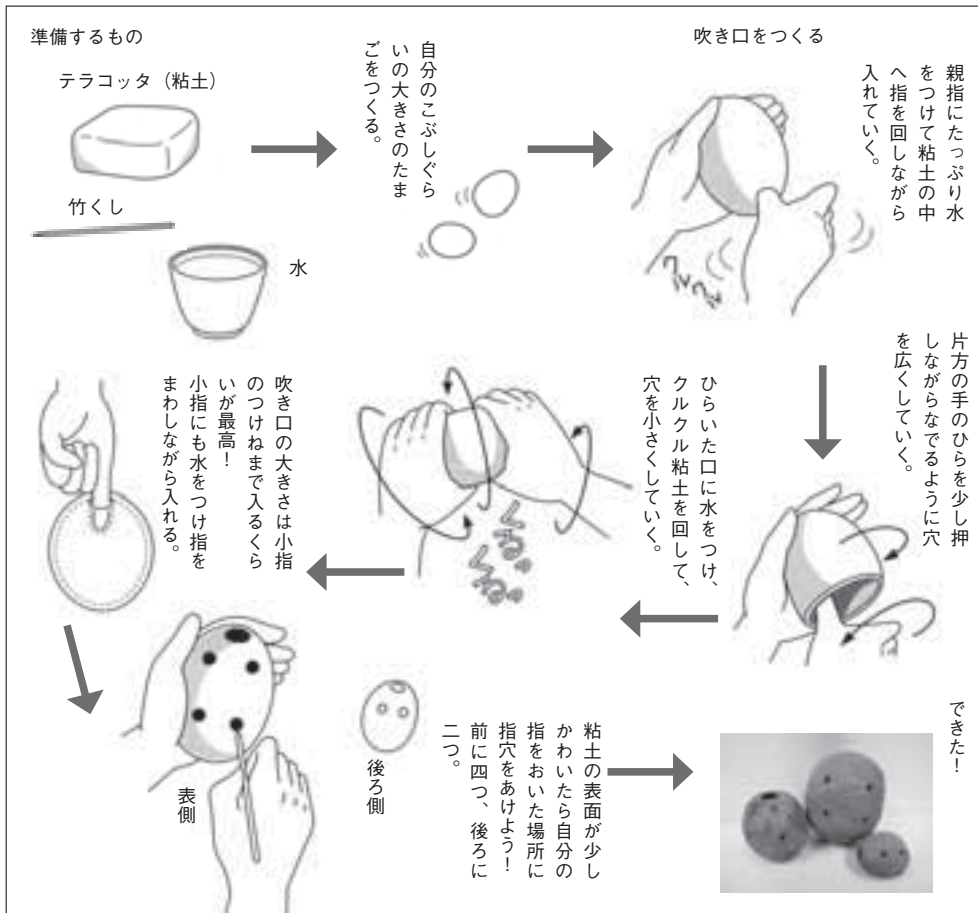
6年生になると、学校周辺へ粘土の採集→土笛作り用の道具作り→採集した粘土を使って土笛の形作りと同時に土器作り→乾燥→土器と土笛の野焼き→土器：赤米の炊飯と塩作り・試食、土笛：音楽づくり→演奏→発表会。

このようなイベントのような授業だが、子どもらは真剣に、「マジおもしろい」という。

思いつきで始まり、試行錯誤ばかりの「土笛」の授業にもかかわらず、子どもらは嬉々として取り組んでいった。土笛との出会いからはじめての授業での思いがけない出来事も含めて、子どもの意気込みとやさしさの姿を紹介しようと思う。

福井大学
橋本 龍雄





「小学校音楽科教育法」(教育出版) より

土笛のつくり方(成形)

《出会い》～書店にて

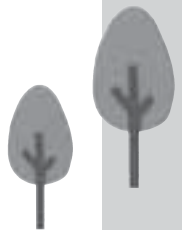
1985年夏、書店で本を探していた時、柴田南雄著「楽器への招待」(新潮文庫)を見つけた。

弥生時代の土笛の出土品のカラー写真と解説が見開きで載っており、弥生時代前期(2300年前頃)の祭礼に使われた素焼きの笛だという。小・中・高校の歴史でも習った覚えはない。銅鐸より前に使われていた楽器だった。

どんな音がするんやろう? 聴いてみたい。家に帰っても頭の中は土笛の音、音、音。

土笛の音を、いますぐ聴きたい。作って聴くしかない…と思った。夕方学校へ行って、図工準備室のバケツの底に残ってた粘土を発見。本の写真を見ながら作ってみた。粘土は乾かさないダメだと習った記憶…。出来上がった土笛をじっと見ていたが、音を聴きたいから、ダメもとで…、吹いた。

ポー、ポー。ええ音や! 子どももきっと感動すると思い、2学期早々の授業で、土笛を作ろうと決めた。



《授業開始…形づくり》～鳴らない、どうする？

作り方も手順も試行錯誤のまま、僕が土笛を知ったいきさつを話し、土笛を作ろうと持ちかけた。子どもらは、「作ろう」「作ってみたい」と言った。その理由がいい。僕が作れたのだから、自分たちも作れるはずだという。子どもの判断は正しい。粘土で土笛を作るという作業は、僕も子どもも初めてのこと。だから条件は同じ…。大人が子ども以上の知恵と技術を持っているとは限らない。その通り。僕の粘土の経験は、子どもの頃に田んぼのあぜ道で採って、ぶつけて遊んだことと、小2の頃に学校で灰皿を作った記憶があるのみだ。子どもらは、僕がやったように、写真をたよりにして土笛を作り始めたのだった。

できるもんだなあ。写真のような形の土笛が次々と出来上がっていった。音は？一人の子がポーと鳴らした。そのとたん全員がその子の方を一斉に見る。一瞬の静寂。そしてまた黙々と自分の土笛を作りだす。いつものような無駄話がない。落ち着いた空気が教室中を包んでいく。こんな空気も子どもが作り出すことに驚いた。

形ができて音も鳴らない子どもも多い。作り方が悪いと考えて、友だちの土笛と吹き口を比べたり、吹く強さや角度等の吹き方の違いに気づき、それを教え合ったり、土笛そのものを交換して吹き合ったり…。このような光景は初めてだった。自分自身の土笛を作って鳴らすことが、子ども一人ひとりの切実な問題になっている。だからこそ、子どもは懸命に、真剣にやっているんだと思わずにはいられなかった。



1990年1月5日付朝日新聞

《乾燥の間》～落として割れて

教室の後ろの棚に土笛をズラッと並べて、1か月間乾燥させた。「できるだけ触らないように」と言って「はい、そうですか」となるはずがない。触りたくて仕方がない。1か月間も見てるだけ…は、子どもには無茶な相談だった。鳴らなかった子どもは、そっと手に取って吹いてみると、そのうちに鳴りだしてくる。粘土が乾くと鳴りやすいのだ。次々に土笛を手に取って吹く子どもたち。

「あっ！」友だちの体に手が触れて、床に土笛が落ちて割れた。泣く子とあやまる子。割れた破片を一片ずつ丁寧に拾って、広げたハンカチにのせる。そのまま僕のところへ持ってきて泣きながら差し出す。それほど大事な土笛だったんだ。僕は作り直すしかないことを伝えた。放課後、廊下の一角に、粘土と机とバケツを置いて、いつでも誰でも土笛の作り直しができる場をつくった。

落として割れた子と体が触れた子が、いっしょに作っている姿がそこにあった。土笛を完成させたい真剣な思いが、お互いにワカルからこそその行動だと思う。その後、そこには毎日誰かいる。何個も作る子どもも現れて、にぎわい、そこは井戸端会議の場所になっていった。

《野焼き8時間》～どンドン割れる！

野焼きをしよう。本には土器の野焼きはあるが、土笛の野焼きは無い。土器を焼くのと同じ方法で大丈夫だろうと思った。工務店でトラック1台分の端材をもらい、野焼きを開始した。2時間ほどして、炎の中から栗がはぜるような、鈍い音が聞こえた。次から次へ続く鈍い音。破片らしき物が飛び跳ねる。「割れたんとちゃうか?」「割れた!」「いや、割れてへん」。炎を囲んでいた子どもらが口々に言う。どの子も割れないで焼き上がることを願っていたが、目の前で起こる景色が現実であった。300個以上の土笛。ほとんどが割れてしまった。泣きじゃくる子ども。呆然とする子ども。泣きながら僕に食ってかかる子ども。

その時、僕はゴメンナサイのひと言すら、子どもらに言うことができなかった。割れた破片全部を持って、教室へ戻ってきた子どもらを前に、僕は初めて子どもらに謝った。僕には何時間にも感じた無言の数分間。子どもから口を開いてくれた。

「もう一度土笛を作らせて…」これ以上の深い、やさしい言葉があるだろうか。

子どもに感謝してもしきれない、これらの出来事のお陰で、僕は土笛の実践をずっと続けることができている。



「音楽づくりワークショップ」に参加して

●音楽編集部

日本女子大学教授、坪能由紀子先生が企画・構成された「音楽づくりワークショップ」が、去る8月25日に日本女子大学にて開かれました。今年が第4回になります。数名のワークショップ・リーダーがプログラムを持ち寄り、50名の参加者はその場を共にした人たちと一緒に、アイデアごとに短時間で音楽をつくっていきます。

1

拍節のない音楽づくり 〈熊木眞見子先生〉

「拍節のない音楽づくり」は、拍にのっていないために「何でもアリ」になってしまいがち。でも、一つの音を子ども一人一人がどのように出そうかと緊張感をもったり、耳をすまして音を出すタイミングや間などを工夫したりするよい機会にもなります…こんなお話から熊本先生（淑徳大学）のワークショップは始まりました。

■準備

使用楽器：トーンチャイム、サウンドブロック

- ・トーンチャイムは、響きを生かすことを考えると、拍節的でない表現のほうが合う楽器。また、複数の音が重なってクラスター（隣接した音が密集して鳴る）になった場合も、うるさくならないという利点がある。
- ・学校ではトーンチャイムが児童の人数分あるとは限らないので、ほかにトライアングル・チーム、サウンドブロック・チーム、エナジーチャイム・チームなど、楽器ごとにグループをつくった。実は壊れて廃棄処分にするメタロフォンの鍵盤に、一つずつひもを通して短冊状にぶら下げたものや、仏壇に使うお鈴を利用したことがある。余韻のある良い音がする。



■音楽づくりのアイディア

- ①並んだ順番に一人ずつ鳴らしていく（10人程度。間を考えながら回す。音は長く響かせて）。
 - ・並ぶ順番は決まった音階にこだわらない。ピアノを習っている子などに、ハ長調の音階にこだわる姿が見られることもあるが、わざと背の順に並ばせたりして崩す。拍にも捉われさせず、響きにひたるようにする。
 - ・子どもが間や音を出すタイミングを考えられない場合は、示唆して工夫させる。
- ②①と同様に並び、短い音で（一瞬鳴らした後すぐ響きを止める）、できるだけ早く回していく。
- ③音を長くするか短くするかを、一人一人選択しながら回す。
 - ・短い音の次の人は、すぐ鳴らす。
- ④自分なりのルールを決めて鳴らす。
 - ・自分の呼吸に合わせて吐くときに鳴らす、息を吸ってから一瞬止めて吐くときに鳴らす、呼吸3回のうち1回鳴らす、など。リーダーが時計回りにゆっくりと腕を回す間に、数人が各自1回鳴らす。
 - ・長い音バージョンと短い音バージョンで試す。
- ⑤トーンチャイムを持って歩き回り、すれ違うとき目が合ったら一緒に打つ（長い音で）。
 - ・空間に対して、何人でできるか指導者の調整が必要。
 - ・指導者がウッドブロック等で拍を打ち、合わせて短い音で同じことをしてみる。



■グループに分かれて音楽づくり

10人ずつのグループで、10分程度でつくる。

ルール

- ・長い音・短い音の両方を使う
- ・長い音だけの部分、短い音だけの部分がある
- ・全員一緒に合わせて鳴らす部分がある

グループ発表では、それぞれ短い時間で工夫を凝らした表現が発表されました。始まり方や終わり方、形式感などに配慮されたものが多かったようです。

☆この内容は、9月中旬発行の音楽之友社刊「教育音楽 小学版 10月号」の連載「わあっ！できた！きいて！」に、熊木先生ご自身の原稿で掲載されるとのことです。

2

誰にでもできる音楽づくりのポイント 〈坪能由紀子先生〉

3のワークショップに移る前に、坪能先生より音楽づくりで大切にしたいポイントについてのお話と、モチーフを使った音楽づくりについてご紹介がありました。

1. 音楽づくりのために必要なこと

- ① 聴く・認める・生かす ② 「間違いのない音楽」を子どもと共有する

①の「聴く」は、お互いに聴き合うこと、子どものいろいろな表現を指導者がよく聴いてあげることなどを示している。そして子どもの表現のよさを認め、生かしながら広げていくことが大切。

②については、「間違いにならない」ように、前もってルール（使用する音を限定するなど）をつくってあげることが重要。そのルールの中でなら、どんな表現でも「間違い」にはならない。また、子どもが誤って、あるいはあえてルールをはみ出した表現をしたとき、指導者がそれを認め、新しい創造へと導くことが大切。

2. モチーフによる音楽づくり・音階による音楽づくり

今日これから若い人たちによって紹介される四つのワークショップのうち二つは、リチャード・マクニコルの「CREATE and DISCOVER」という本に出ていた、シェーンベルク「月に憑かれたピエロ」のモチーフを使った音楽づくりのアイディアにヒントを得ている。3音のモチーフを使って、またはそのモチーフに数音加えたものを使って、音楽を構成していくもの。

■音楽づくりのアイディア

…木琴による「ミ ラ」のオスティナートにのせて

- ① わらべうたの音階「ミ ソ ラ シ レ ミ」で即興的に旋律をつくる。
- ② 音階のなかの音、「ミ ラ シ」のモチーフだけでつくる（ソを抜くと不思議とつくりにくい！）。
- ③ 同じ形になるモチーフを音階の中からほかに探してつくる（「ラ レ ミ」「レ ソ ラ（下のレを加える）」）。
- ④ もう一度これらのモチーフを意識しながら、「ミ ソ ラ シ レ ミ」で自由に旋律をつくる。

不思議なことに、①で音階から旋律をつくったときより、④でモチーフを意識して旋律をつくったときのほうが、旋律にまとまりがでえます。



3

4種類のワークショップ 〈東京藝術大学の修士院生を中心としたグループ〉

4人の方からワークショップの提案があり、出席者も四つに別れて音楽づくりを体験しました。

1. モティーフによる音楽づくり

提示されたモティーフ … Es E A (武満徹「Toward the Sea 海へ」より)

- ①モティーフの展開を考える。(別の音から始める、逆行させる、等)
- ②図形楽譜で、モティーフを基本のまま使う・逆行させる・反行させる・反逆行させるなどを表し、作品の構造を視覚的に捉えながら、構成を考えていく。
- ③使用する楽器を考えて、表現を工夫する。(半音進行ができる鍵盤楽器、響きが保てるトーンチャイムやサウンドブロックなどを使用)

2. 音階による音楽づくり

1オクターヴ12音の中から、1のアイディアと同じモティーフ(Es E A)に、他の3音を好きに加えた(チームA)と、それ以外の6音を使う(チームB)に分かれる。

- ①楽器を選ぶ。
- ②チームごとに4小節の音楽をつくる。
- ③全員で同じ旋律を演奏する・それぞれを重ねる・リレーする…などして展開していく。

3. 偶然性の音楽づくり

用意するもの … 音の書かれたメモ

メモは音部記号を出さず、逆からでも読めるようにする。楽譜の横に#やbなどの臨時記号が書かれているものも用意する。メモは袋に入れる。

- ①拍子、小節数、何声にするか、各自のパートを決める。
- ②パートごとに分かれ、袋からメモを取り出し、同時にサイコロをふって出た目の数字の音部記号で選び取ったメモの音を読んで記譜する。#やbが書かれている場合は、書かれている数以上に臨時記号を付ける。この作業を繰り返す。
- ③作業が全て終わったら、リズムなどを全体の拍子や小節数に合うように調整する。
- ④楽器を選択して合わせる。

4. 映像に音楽をつける(恐怖をあおる音楽)

キューブリック監督の「シャイニング」の一場面の音声を消し、音楽をつける。使用部分の映像は、映像だけではそれほど恐怖を感じさせない。それにどれだけ恐怖をあおる音楽をつけられるかを考える。実際の映画では、ペンデレツキ作曲「ヤコブの目覚め」が使用されている。

提示された音素材のアイディア…クラスター、半音階、グリッサンド、音型の反復、速いトレモロなど

この日はほかに、日本女子大学の修士院生を中心としたグループから、

1. スティーブ・ライヒの「木片の音楽」をもとにした音楽づくり
 2. ブルースのコードをもとにした音楽づくり
 3. J-POPをもとにした音楽づくり
- などが、短時間ではありましたが紹介されました。

私は邦楽の専門家ではありませんが、民族音楽に惹かれ、大学時代第二専攻で箏を3年間学び（宮城曲の小品）、大学を出た後、箏・三絃の古曲を本格的に約6年間学びました（故上木康江師）。また、故小泉文夫氏の講座を1年間受講したことも大きな力となりました。平成11年からNPO法人「邦楽教育振興会」（邦楽に関心のある先生方を中心に600余名からなる全国組織）の理事兼事務局長として、隔月発行の会報の編集等を担当し、全国の和楽器教育の実情をリアルタイムで知ることができました。平成14年度から、東京都品川区教育委員会の依頼により、区立の全中学校での和楽器（箏）体験授業を担当しています。同18年度からは全小学校も加わり現在に至っています。以上の体験から得た和楽器教育に関する知識・考え等を述べさせていただきます。平成14年度から完全実施に入った和楽器教育も10年経ちました。残念ながら楽器がない、教材がない、指導者がいない等で、十分な成果が上がっていません。今回は概論として各和楽器の特性等を中心にお話いたします。どの楽器から取り組むべきか等のご参考になればと願っています。なお、今回は実際の授業展開方法について述べたいと思っております。

箏を使う授業

調弦さえしてあれば、すぐに簡単な旋律が弾ける易しい楽器です。現在では種々な種類の箏が流通していますが、標準は約180cmの長さです。短箏も十分に活用できます。但し、1m以下のミニ箏がありますが、弦の間隔が狭く、小学生にはよいと思いますが、中学生以上には扱いにくくお勧めできません。また、弦の張り方は手で締めるものと、ネジ（ペグ）で締めるものがあります。弦が切れた場合ネジ式のものは簡単に張替えが可能ですが、手で締めるのは初心者には無理です。（1本切れても業者に依頼しなくてはならない）

爪は生田流と山田流の2種類があり、どちらを選ぶかは指導者との関係を考慮するべきかもしれません。皮のサイズや数に余裕を持たせて揃えるべきでしょう。

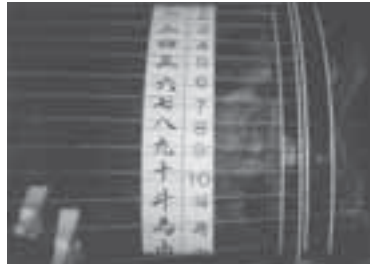
ケースに仕舞う時は必ず柱を外し、表裏・左右を間違えないよう十分に気を付けて下さい。床にそのまま置いて保管する場合は表裏・左右を揃えれば2～3面重ねてもかまいません。立てかけて保管する場合は必ず龍尾を上にし、龍頭を下にします。（逆さにすると倒れやすい）また、油単（布製のカバー）使用で保管する場合は床に重ねて置かないようにします。

調弦にあたっては一の弦のみをチューナーで取り、他の弦はそれを基準に完全5度・4度・8度等の響きを確認しつつ調弦できるよう耳を鍛えて欲しいものです。（13弦全てをチューナーで取るのはなるべく避けたいものです）一と五を同音とするか、1オクターブ低くするかは演奏曲目によって使い分けます。テトロン弦を張り、毎日使用する場合は1週間程度柱を立てたままでも構いません。

調弦法は平調子・中空調子・雲井調子・乃木調子等の古典的調弦法のほか、どのような調弦を用いても構いません。長・短音階の曲を演奏する場合は、その曲に最も合う（なるべく押し手を使わない）調弦法を工夫します。他の楽器との合奏の場合は特に調性を十分考慮する必要があります。

洋楽器と決定的に異なる点は、箏は絶対音高が決まる楽器ではないことです。このことを理解すると大変便利な楽器であることが分かります。

箏の体験学習時数が少ない場合は児童・生徒が少しでも早く対応できるように弦名のシートを貼っています。（両端をセロテープで固定する）小学校には外国人の児童がしばしば在籍しているので、昨年度から算用数字の弦名シートを採用しています。また、五、七、十の弦に赤のサインペンで印をつけています。（眉をひそめる邦楽のお師匠さん方もいらっしゃいますが、筆者はあくまでも児童・生徒主体に考えて実施しています）



※なお、写真の弦名シートをご希望の方は、教育出版のホームページ

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/view.rbz?cd=2182> からダウンロードできます。

楽譜は生田流では漢数字の縦書譜を多く用い、山田流では横書譜が多く用いられます。最近では算用数字の楽譜もかなり普及しています。特に小学生には好まれます。

1面の箏を二人交替でも十分可能です。（三人以上では十分な授業はできません）

三味線を使う授業

自分で音を作る（ツボ）楽器で、箏より少し難しい楽器です。三味線は大きく分けて3種類あります。

- ①細棹（ホソザオ） …長唄、端唄、俗曲、小唄等
- ②中棹（チュウザオ） …地唄、常磐津、清元、新内等
- ③太棹（フトザオ） …義太夫節、津軽等

三味線と三絃という言い方がありますが、同じ楽器です。邦楽のジャンルによって習慣的に使い分けています。三絃は地唄箏曲の分野で使っており、その他はほとんど三味線と言っています。日本の伝統音楽は家元制度のもと、微妙な音楽表現の違いを非常に大切に守ってきました。そのため楽器に改良が加えられました。撥の大きさ、形も異なります。教育現場で用いられるのは殆んど細棹三味線と長唄撥であろうと思います。

弦は本来絹を使いますが、教育現場ではナイロン弦が一般的になっています。Ⅰ弦とⅡ弦を絹にし、Ⅲ弦のみをナイロンにする場合も多いようです。

サワリは三味線独特の音色を求めて工夫されたものです。いかにも日本人の美的感性に合った素晴らしい工夫であろうと思います。Ⅰ弦のみを上駒に乗せずサワリ溝の部分で僅かに棹に触れる構造になっており、噪音が発生します。サワリにはネジ式のものがあり、津軽三味線や民謡三味線で使われています。Ⅱ弦やⅢ弦を弾いた時も、その時の音がⅠ弦の倍音と一致すると共振し、噪音を発生します。従って三味線はどの弦を弾いても噪音を伴いながら演奏する楽器です。（ツボが正確でないとサワリは鳴らない）これがワビ・サビに通じる日本

的な音として愛好されるのでしょうか。五音旋法で創られた曲は、七音音階で創られた曲より、この倍音に当たる音が多く含まれ、サワリがよく鳴ります。

胴皮は猫、犬、合成皮革等があります。教育現場では合成皮革が多いと思います。撥皮は演奏する時撥が当たる部分に貼ってある半月形（津軽三味線は長い）の皮で、胴皮を保護するものです。特に初心者はこの部分に正確に撥が当たるよう練習しなくてはなりません。

駒の位置は音色に大きな影響を及ぼします。一般的には胴の下部から3～4cmのところにかけます。胴の中心に近くなると音が柔らかく（ばやける）なり、胴の下部に近くなると音に張りが出ます。プロは曲によって微妙に位置を変えて演奏する場合もあります。

撥にもいろいろな種類があり、三味線の種類やジャンルによって使い分けています。材質は象牙、鼈甲^{べっこう}、水牛の角、木、プラスチック等です。教育現場では殆んどプラスチックが使われているようです。

調弦法は本調子H-E-H。二上り調子H-F i s-H。三下り調子H-E-Aがあります。絶対音高ではないので、I弦をどの高さにとってもかまいません。おおよそAからdあたりまで可能です。このことは洋楽の弦楽器では考えられないことです。例えばヴァイオリンの弦を3度、4度上げ下げしたら大変なことになります。その点でも不思議な魅力ある楽器といえるのではないのでしょうか。

楽譜は伝統的には箏と同様縦書きし、漢数字を用いてツボ（ポジション）を表します。近年は横書きで3本の平行線を引き、下がI弦、中がII弦、上がIII弦を表し、それぞれの線上にツボを算用数字で表現し、文化譜と呼ばれ広く用いられています。なお、開放弦は0で表現する方法と、一（1）で表現する方法とがあるので気をつけなくてはなりません。

1 棹（挺）の三味線を二人交替でも十分授業展開が可能です。（三人以上は困難です）

篠笛を使う授業

和楽器は殆んど中国等から伝来しましたが、横笛は我が国で生まれた楽器と言えるようです。古事記に「竹の細い部分で笛を作った」との記述があります。万葉集にもしばしば「ふえ」が歌われています。篠笛は最も素朴な作りの楽器です。神楽囃子や祭り囃子等民俗芸能と共に発展してきました。また長唄や歌舞伎の御簾音楽にも欠くことのできない楽器として発展してきました。指孔は6孔、7孔がありますが、教育現場では7孔が適切です。本来はピッチを決める必要のない楽器でしたが、今日では半音ずつ高さの異なる13種類のものが揃っていて、低いものから一本調子～十〇本調子と呼びます。四本調子～八本調子のものが扱いやすいでしょう。また、他の旋律楽器と合奏することを考えると八本調子がCdurに対応するので扱いやすいでしょう。

楽譜は縦書譜、横書譜があります。縦書は漢数字で、横書は算用数字で記譜します。八本調子管を用いるとCDEFGAHが1 2 3 4 5 6 7に対応し非常に分かり易くすぐに慣れることができます。

同じ音が連続する時は、隣の指を素早く打って区切ります。タンギングは通常使いません。

1 管一人が原則でしょう。（リコーダーのように咥えないので、二人交替でも可能？）

和太鼓を使う授業

大太鼓（長胴太鼓）、平太鼓、桶胴太鼓、締太鼓等があり、構造上では鉦打太鼓と締太鼓に大別できます。

出土した埴輪の中に太鼓を打っているものがありますから、古くから太鼓は使われていたと考えられます。しかし、今日の鉦打太鼓は大陸から伝来したものに改良が加えられたと考えられています。

皮は牛皮を用います。胴の素材は^{けやき}・^{せん}などが一般的です。最近は合板製のものも出回っています。

バチは材質、長さ、太さ等いろいろあり、太鼓の種類や用途によって使い分けます。大きい太鼓には堅くて太いバチ（桎材等）を用い、締太鼓のように小型のものには柔らかめで細めのバチ（桎材等）を用います。

締太鼓はひもで締めますが、今日ではボルト締めが多く出回っており、調整が簡単なので教育現場ではボルト締めの方が適切でしょう。

楽譜は殆んど横書きで、五線譜用の音符を活用して表記しています。また、太鼓の練習には唱歌（ショウガ）がよく使われます。

太鼓を用いる音楽教育では、多くの場合組太鼓（創作太鼓）として展開しています。それは、主として大太鼓が表打ちを担当し、締太鼓が地打ちを担当します。地打ちが一定のリズムを持続低音風に打ち続け、そのリズムに乗りながら表打ちが主旋律の役を演奏します。更に、平太鼓や桶胴太鼓など音色の異なるリズムを加えることによって、より一層音楽的に高い演奏を目指します。

1張（台）の太鼓を対面で打つ、順番に交替で打つ等、工夫次第でいろいろな展開が可能です。

尺八を使う授業

鎌倉時代に中国から伝来したものが改良され今日の尺八になったと言われています。竹を切って歌口に加工を施しただけの実に素朴な楽器です。演奏はそれなりに難しいのですが、音楽的表現の幅は非常に広い楽器です。この音質は日本人の美的感性に大変よく合致すると言えるでしょう。材質は真竹ですが、最近は木製、合成樹脂製のものも出ています。1尺8寸管が基準ですが、1尺3寸から3尺までの長さのものが工夫されています。1寸ごとに半音の差が生じます。8寸管（D音）か6寸管（E音）から始めるのがよいでしょう。奇数寸の管は派生音管ですから初心者は決して選ばないで下さい。孔は表に4孔、裏に1孔の5孔です。5孔でいろいろな音を出す訳ですから1/2開けたり、1/4開けたりしなければならず、素早く対応できるようになるには相当の練習が求められます。多くの時間が必要な楽器です。

楽譜は琴古流と都山流で異なりますが、いずれも指孔に基づくポジション譜であり、実音を表現するものではありません。従って、同じ楽譜でも管の長さを替えると簡単に移調ができます。他の楽器は殆んど数字譜を用いるようになりましたが、尺八は今でも数字譜を用いません。

1管一人が原則でしょう。（リコーダーのように咥えないので、二人交替でも可能？）

カセット テープ

から

オーディオ CD

をつくる

Let's try!



●音楽編集部

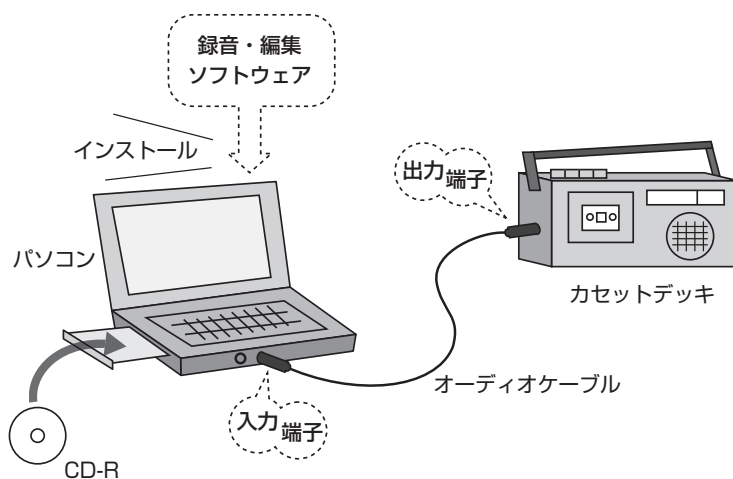
筆者の自宅には、カセットテープやLPレコードなど、アナログの音源がたくさんあります。カセットテープは、そのほとんどが20年を経過し、テープが切れたり、ワカメのように伸びてしまったりと、トラブルが頻発するようになってきました。音楽発表会の生録音など、もう入手できない大切な音が失われてしまう前に、別の媒体に移して聴き続けることはできないものか…。そこで、カセットテープに収録されている音を、自宅にあるパソコンを使ってCDに移すことにチャレンジしました。

本稿では、できるだけ簡単な手段を用いて、一般的なCDプレーヤーで再生することのできるオーディオCDの作成を目指しています。

(注) …カセットテープ等に収録された音源の複製および使用にあたっては、著作権の侵害とならないよう*制限が課せられます。*http://www.jasrac.or.jp/park/whats/whats_4.html

用意するもの

- カセットデッキ
- オーディオケーブル
- パソコン（CD-Rに書き込みができるドライブが付いているもの）
- 録音・編集ソフトウェア
- CD-R



1 カセットデッキとパソコンをつなぐ

※カセットデッキにケーブルをつなぐ

カセットデッキの裏側にある、音楽信号の出力端子（写真1）に、電器屋さんで購入したオーディオケーブルのRCAプラグ（写真2）を接続します。このとき、端子の色（赤と白）を間違えないように注意します。

ラジカセなど、ヘッドホン端子しかない場合は、（写真3）のような両端がステレオミニプラグになっているオーディオケーブルを使い、一方のプラグをヘッドホン端子に接続します（写真4）。

写真
1



写真
2

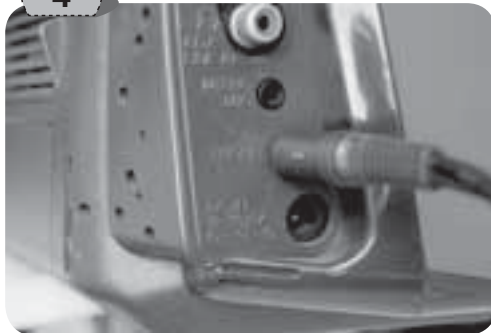
RCA
プラグ



写真
3



写真
4



※ケーブルの反対側をパソコンにつなぐ

オーディオケーブルの反対側のステレオミニプラグを、パソコンの入力端子「LINE IN」へ、無い場合は「MIC」に接続します（写真5）。

写真
5



2 録音・編集ソフトをパソコンにインストールする

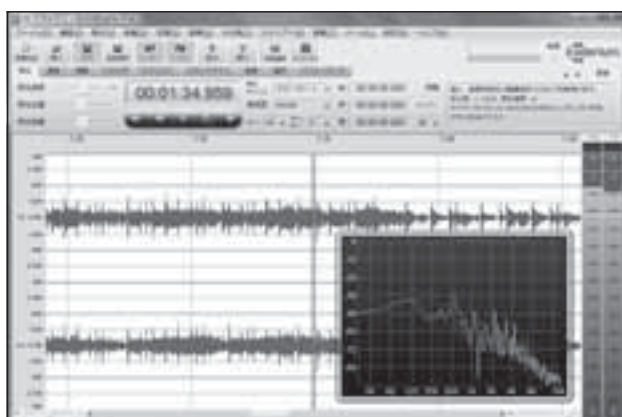
筆者は録音・編集ソフトに「SoundEngine Free」*（以下 SoundEngine）を用いました。SoundEngine は wav ファイルの録音や編集ができる、使いやすく多機能なソフトウェアで、インターネットを使って株式会社コードリウムのホームページ、<http://soundengine.jp/software/> から無償でダウンロードできます。フリーのソフトウェアで、サポートなどは一切ありません。本稿をお読みの方がこのソフトを使われる場合は自己責任となりますのでご注意ください。

なお、録音・編集ソフトは、有料のものや、無料のものなどが、数多く公開されています。パソコンを使った録音に挑戦される際は、ソフトウェア検索サイトなどを利用し、お持ちのパソコン環境に適合したソフトウェアを探されるのも一考かと思います。



<http://soundengine.jp/software/>

SoundEngine の実行画面▶



3 パソコンにカセットテープの音を録音する

※ 録音レベルの調整

SoundEngine を起動し、カセットテープを再生します。録音タブをクリックすると画面右側のレベルメータが動き出しました。パソコンを使った録音が可能な状態です。試しに1曲めを2分ほど録音してみました。

再生タブをクリックし、音を再生すると、画面では音が波形で表示されます。写真8の矢印の部分は、波形がレベルゲージを越え、音が歪んでしまいました。どうやら録音レベルが高すぎたようです。最大音量の波形が、レベルゲージの最大の0dBに収まるように録音音量を調整します（写真9）。この調整は、最適な録音音量が決まるまでには「録音→再生・波形のチェック→録音音量の調整」を何度も繰り返したため、少々時間がかかりました。

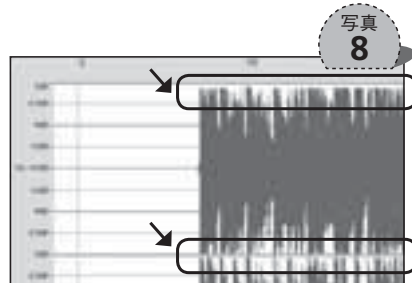


写真
8

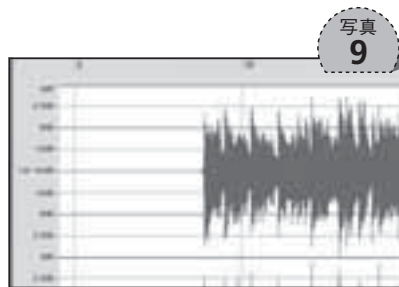
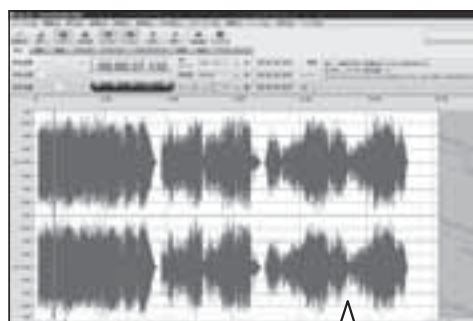


写真
9

※ パソコンに録音する

さて、録音レベルが決まったら、いよいよ録音の本番です。カセットテープのA面全体を録音し、名前を付けて保存（rec_01.wav）しました。続いてB面全体も録音し、名前を付けて保存（rec_02.wav）しました。



rec_01.wav

A面全体



rec_02.wav

B面全体

4 録音した wav ファイルを曲ごとに分割、保存する

分割、保存については何通りか方法があると思いますが、ここではA面全体のファイル「rec_01.wav」から、1曲めの波形を選択、コピーし、新規ファイル「01 トラック1.wav」として保存しました。同じ手順でA面とB面の全曲のwavファイルをつくりました。



選択・コピー



貼り付け

新規ファイル
01トラック1.wav



A面とB面
全曲のwavファイル



5 wav ファイルを CD に書き込む

さて、最後の工程になりました。「Windows Media Player」を使って、オーディオ CD をつくります。「Windows Media Player」を起動し、「書き込み」ボタンの下の小さい矢印をクリックすると出てくるメニューから「オーディオ CD」をクリックします。次に「書き込み」ボタンをクリックすると、右下に「書き込みリスト」が表示され、ここへ、先ほどつくった wav ファイルをすべてコピーします。CD ドライブに空の CD-R を入れ、画面右下の「書き込みの開始」ボタンをクリックすれば書き込みが開始され、終わればオーディオ CD の完成です。



／ 完成！ ／



カセットテープの
インデックスカード
を撮影し、CD に
印刷してみました。



編集協力：須藤 健次（株式会社コードリウム）

*「SoundEngine Free」は、プログラマーの須藤健次さんが個人的につくった録音・編集ソフトウェアで、開発は現在も須藤さんの手によって継続されています。

●編集部からのお知らせとお願い

平成 23 年度用教科書「小学音楽 音楽のおくりもの」及び教師用指導書の下記の部分につきまして、恐縮ですが訂正の上ご指導くださいますようお願い申し上げます。

学年	ページ	箇所	原文	訂正文
1 年	69	たなばたさま	権藤花代 作詞 林 柳波	権藤はなよ 作詞 林 柳 波 補作
5 年	17	唱歌の四季	(三善 晃 作曲)	(三善 晃 編曲)
5 年	33	はやしことばメ ドレー 楽譜及び注釈	エライコッチャ エライ コッチャ ヨイヨイヨイヨ イ	エライヤッチャ エライ ヤッチャ ヨイヨイヨイヨ イ
5 年指導書 研究編	25	左段 21 行め	黄河上流	黄河中流



教育現場とリンク

教育出版

エデュコネット

入会金・会費は無料です！



EducoNet の会員を募集しています！

会員の皆様に、インターネットを通じて
教育情報をご提供します。

EducoNet
とは...

教育関係者専用のWEBサイトです。

役立つ資料・情報の宝庫です。

- 教育情報.....教育界の動向等の情報提供
- 教科のページ.....年間指導計画・評価基準・高校シラバス・教科別お役立ちコーナー・編集部からのお知らせなど
- メールマガジン.....教育関連情報をタイムリーに発信

会員は...

- ◆会員専用のコンテンツにアクセスできます。
- ◆メールマガジンが定期的に配信されます。

申し込みを受け付け後、
ID・パスワードを勤務先に
郵送します。



教育出版 EducoNet 会員登録について

★WEBにて受け付けています!!

教育出版ホームページまたは
<http://educonet.jp/entry.html> に
アクセスしてください。

※個人会員のほかに、教育委員会・学校単位での申し込みも受け付けます。

教育出版ホームページの主な内容
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

EducoNet (会員制)

- ・年間指導計画
- ・評価基準
- ・教科別お役立ちコーナー
- ・教科通信
- ・ニュースレター
- ・各種教育情報
- ・編集部から
- ・メールマガジン

情報提供

...・教育情報 ・総合的な学習 ・研究会日程

各種リンク集

ご案内

...・教科書内容 ・教師用指導書 ・教材品

教科書関連資料・写真館

新刊書紹介

もの知りテーマパーク

地球時代の教育情報誌Educo

教育出版

▶▶▶ EducoNet 事務局 E-mail : educonet@kyoiku-shuppan.co.jp

小学音楽通信 Spire_M (2011年 秋号) 2011年9月30日 発行

編集：教育出版株式会社編集局

発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光

印刷：大日本印刷株式会社

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10

電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL : 011-231-3445 FAX : 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL : 0138-51-0886 FAX : 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL : 022-227-0391 FAX : 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL : 052-262-0821 FAX : 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL : 06-6261-9221 FAX : 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手ビル 5F TEL : 082-249-6033 FAX : 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL : 089-943-7193 FAX : 089-943-7134
九州支社	〒810-0001 福岡市中央区天神 2-8-49 ヒューリック福岡ビル 8F TEL : 092-781-2861 FAX : 092-781-2863
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F TEL : 098-859-1411 FAX : 098-859-1411